

◆ **今週のコメント** (この週報は、6/22～6/28の期間についての記載ですが、新型インフルエンザについては最新の情報を掲載しています。)

- ・ **新型インフルエンザA(H1N1)**の報告が、平成21年6月30日(第25週の感染症週報発行)以降11例(通算6例目～16例目)あります。
6例目は、7月1日に確認され、年齢は35歳で、アメリカに滞在し、帰国後発熱したものです。
7～10例目は、7月2日に4名確認され、年齢は16～19歳で、アメリカからの同一のツアー客です。日本を観光中に京都市内で発熱したものです。
11例目は、7月3日に確認され、年齢は16歳で、カナダに短期留学で滞在し、帰国後発熱したものです。なお、帰国後の登校はしていません。
12例目は、7月6日に確認され、年齢は6歳で、アメリカの小学校に在学しており、一時帰国後発熱したものです。
13例目は、7月6日に確認され、年齢は39歳で、タイから帰国後、発熱したものです。
14～16例目は、7月7日に確認され、年齢は20歳2例、21歳1例で、すべて国内で発生したものです。

◆ **今週のトピックス: <咽頭結膜熱>**

今週の定点当たり報告数は0.27で、過去5年平均値を下回っているものの、本年度で最も多くなっています。
詳細をトピックスに掲載しています。

◆ **発生状況**

全数報告の感染症

- ・ **新型インフルエンザ等感染症: 新型インフルエンザA(H1N1) 11例** 【1月以降の累積報告数 16例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.06	4
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.85	158
	② 水痘	0.93	38
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.85	35
	④ 突発性発しん	0.46	19
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.32	13
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

病原体情報

ありません。

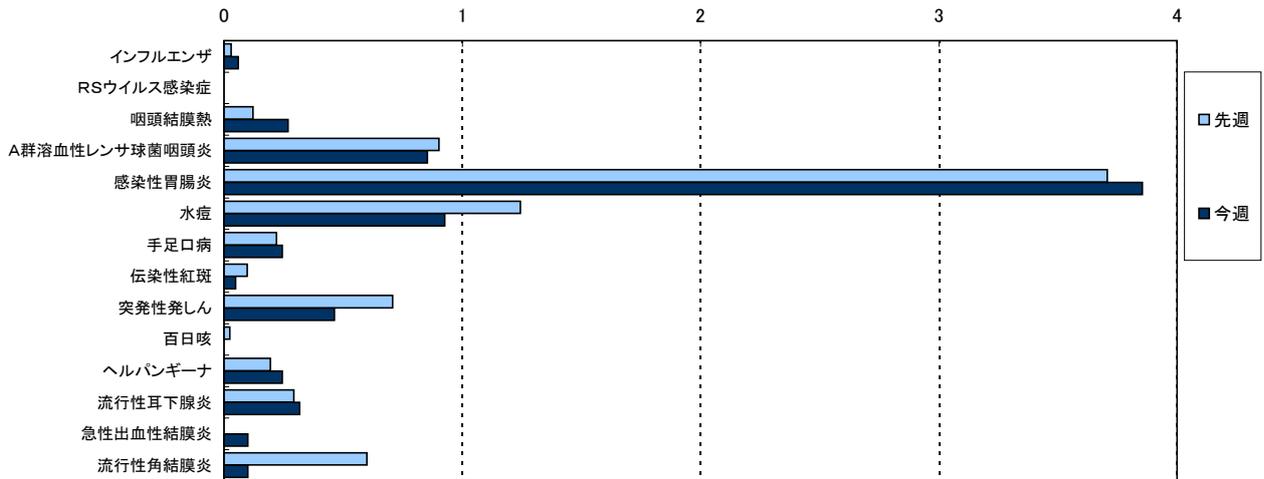
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

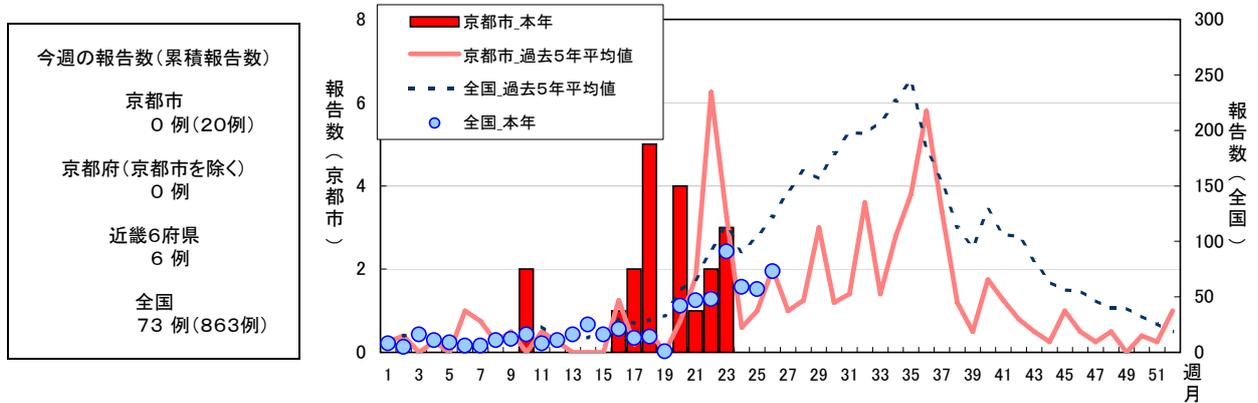
(注) 京都市のデータは、平成21年7月2日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第26週)と先週(第25週)の定点当たり報告数の比較

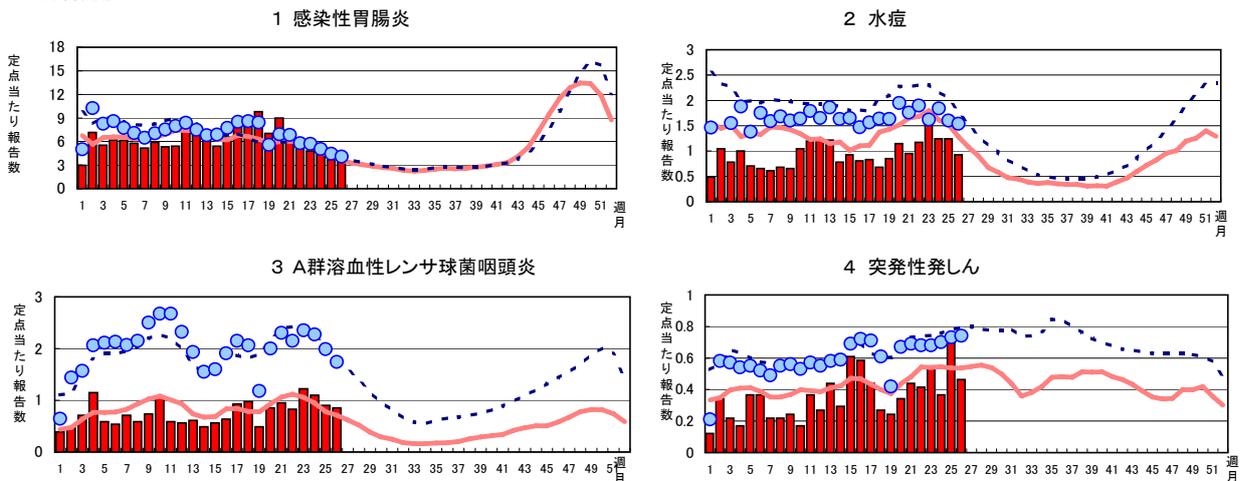


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

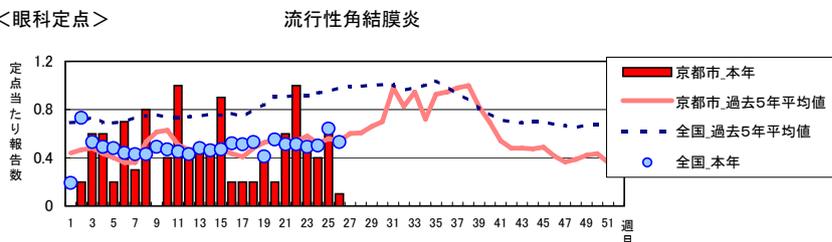


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

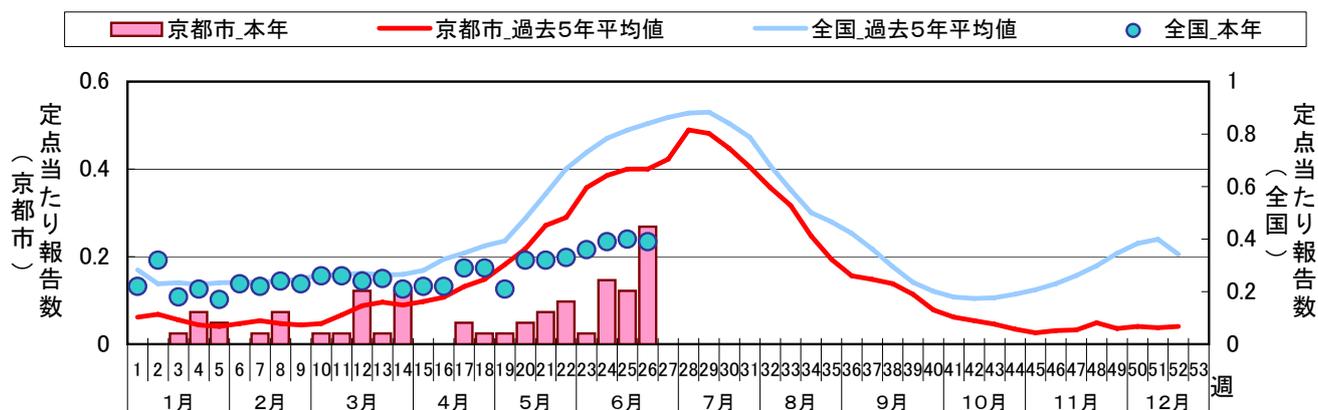


今週(第26週)のトピックス: <咽頭結膜熱>

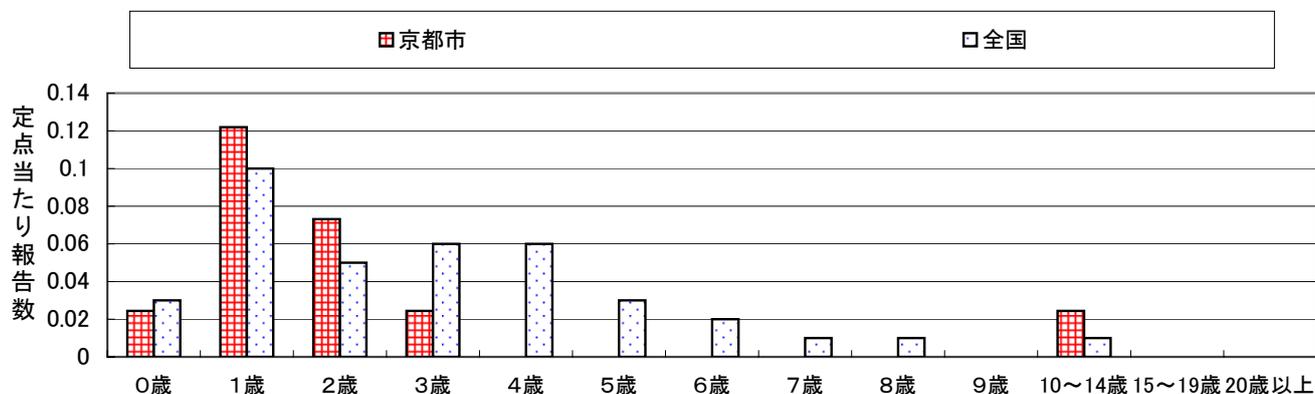
今週の定点当たり報告数は0.27で、過去5年平均値を下回っているものの、本年度で最も多くなっています。年齢階級別では、本市及び全国共に、1歳の報告が多くなっています。また、次いで多いのは、本市では2歳、全国では3歳及び4歳となっています。

平成17年から平成21年第26週までの間の咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルスの報告において、本市ではアデノウイルス3型が3例報告されており、重症肺炎など重篤な合併症を引き起こすとされるアデノウイルス7型は報告されていません。全国ではアデノウイルス7型は、平成17年に4例、平成19年に1例、平成20年に2例が報告されています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数



咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルスの報告数(本市及び全国)

採取年	アデノウイルス3型		アデノウイルス7型		その他	
	本市	全国	本市	全国	本市	全国
平成21年 (第26週まで)	0	25	0	0	0	49
平成20年	2	121	0	2	0	197
平成19年	0	79	0	1	0	143
平成18年	0	284	0	0	0	188
平成17年	1	189	0	4	0	166